

2025年9月25日 食品産業新聞に 取材記事が掲載されました。 ~搾った後のお酒の管理テーマに提案

自動化設備へ開発の質を変化



を頂いたものに対して、で

注力や広告宣伝費をかけて 備投資は控える流れを感じ

## た後のお酒の 菊 田 壮 泰 氏

キクプランドゥー

代表取締役社長

る。そういったところをし 品を再度お客さんの元に持 っかりカバーできたこともち込み、声を聞くサイクル

貴社が支持される要 の過程で社長の私が意思決

積極的に設備投資されてい 行し(ドゥー)、開発した製 発信を行っている。2つ目

定しており、通常の開発速

の管理テーマに提案

を繰り返している。それらダイレクトメールで年8~ 目としては、ウェルカムデ

メルマガではなく、郵送の 9回案内をしている。3つる。 に情報カタログを作成し、

理に注力している。杜氏の して、搾った後のお酒の管 主な仕事はもろみを搾るま でだったが、各蔵で社員化 当社が特に得意な分野と

で広まり、実績が増えてい み重なり、少しずつ口コミ きた。そういったことが積 をさせて頂く機会も増えて いう提案が大手や中小、小による制御、記録機能を加 問わずに伝わりやすくなっ 後のお酒の管理ができると シング技術やタッチパネル 規模といった企業の規模を

えることでデータを蓄積す

できた。さらにここからは、 通りの開発を進めることが 製品ペースで世に出し、 ていくことに開発の質を変 自動化をテーマに掘り下げ 業界にないものを年間10 今後の取り組みを お酒をテーマにした飲食店 とが大事だと考えている。 ることが可能になる。日本 いた。酒販店や飲食店を訪 わらせて頂いている酒蔵の でのイベントにお声がけ頂 においては、記録をするこ 酒業界の継承というテーマ 今年は、当社が設備で関

まっており、いち早くアプ 化させていきたい。自動化 はまだ潜在的なニーズに留 より深く知って頂く一助に う視点から日本酒の魅力を だ。当社は生酒の味の変化 なればと考える。 れる方々がお酒と設備とい 明るい話題としては輸出

らうことによって、搾った 位で温度変化が分かるセン うことが多い。0・1℃単 る設備投資を提案してい ローチしていきたい。研究・ 手の感覚よりも落ちてしま が、作業においては人間の 度の自動化ができている 分析機器に関してはある程 しており、酒質を高められ を少なくする火入れを確立

## いう勢いで酒質を上げよう聞くのキクで、現場で聞いる。1つは、SNSで日々の 対して追いつけ追い越せと て、現在はお客さんの話を で広告宣伝費をかけてい 改良も常に行っている。社 めている声を形にできるよ でも大きくブースを取って ランしてドゥーではなく 名の由来でもある菊田がプうに努めている。 行い続け、開発した製品の 造業界に特化した酒蔵が求 オリジナルの製品開発を 度よりも速く、ニッチな酒 自動化設備へ 加えて毎年、数千万単位 へ開発の質を変化 蔵が集まる講習会などで講 り組んでいる。4つ目は、酒 製品を見てもらうことに取 や、醸造機械専門の展示会 イと題して自社に招くこと が進み、お酒を造ってから 発信し、多くの人に当社の る。当社の製品を使っても 管理ができるというテーマ 届けるまで責任を果たすよ でパッケージして届けてい なかった搾った後のお酒の うになっている。今まで少

も4期連続に向けて広告宣 リーズを精力的に開発して 通しで、買い控えのような としているところもあり、

て計画を立てて(プラン)実 新製品の情報、開発の情報

師として呼んでもらい、話

たと感じている。その中で 意欲は少し勢いがなくなっ

自社ブランドのKPDシ

1・5倍から2倍になる見

の価格が酒蔵によっては

好調の要因は

る。ただ、今年は米の値上が 2ケタ成長を目指してい きている。今期は4期連続 続き、過去最高を更新して から3期連続2ケタ成長が 社長に就任した21年1月

円を目指している。 た。今期も1億円増の8億 は1億円増の7億円だっ 3億円ほどだったが、前期 に就任した時点の売上高は るように動いている。社長 きる限り短納期で収められ

問題が発生した。今年9 ただ、その矢先に米の高騰 備投資も活発化し始めた。 ようやくコロナ後となり設 る。加えて、昨年辺りから きたことで堅調に伸びていている。

った案件もある。また、特に

話や、震災からの復興を目 新規参入で新蔵を建設する

その一方、M&Aによる

指し、設備を導入するとい

